

## カキ「太秋」の雨よけ栽培による高品質果実生産

「太秋」は、雨よけ栽培により汚損果発生が抑制され秀品率が向上し、果実は大きくなる。糖度や果肉硬度など果実品質に差はない。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室（担当者：加久るみ子）

## 研究のねらい

カキ「太秋」は、大玉で食味が良いが、条紋や条紋由来の汚損が発生しやすく、条紋由来の汚損発生により秀品率が低下するとともに発生程度が著しい場合は青果率の低下につながる。このため、汚損果発生軽減対策として袋掛けが行われているが、収穫時の果皮色がわかりにくいこと、袋掛け労力が栽培面積拡大の阻害要因となっていることなどから袋掛け以外の対策が求められている。そこで、雨よけ栽培による果実品質向上効果について検討する。

## 研究の成果

1. 条紋発生について、雨よけ区は露地区と発生果率は変わらないが、発生程度では、露地区では「軽」以下が80%程度であるのに対し、雨よけ区は95%程度である(図1)。条紋由来汚損発生については、雨よけ区の発生果率は50%以下で露地区を大きく下回り、発生程度も軽く、秀品率(微以下)は90%以上である(図2)。
3. 果実肥大は雨よけ区がわずかに露地区より大きくなる傾向が見られる(図3)が、雨よけ区の方が収穫時期が遅く生育期間が長くなるため、1階級大きくなる(図4)。
4. 収穫時の果実品質では、糖度、果肉硬度、ヘタスキに両区の差はない(表1)。また、露地区では果粉が残らないが、雨よけ区では果粉がきれいに残る(写真1)。

## 普及上の留意点

1. 調査は両区とも平棚栽培樹で行った。雨よけ区は間口8mの3連棟ハウスを用い、平成19年4月23日に厚さ0.1mmの農業用ビニールを天井と妻面に被覆し、平成20年の果実収穫終了まで被覆したままとした。サイドには6mmネットを取り付けた。
2. 赤道部果皮色カラーチャート4を目安に収穫すると、雨よけ区は露地区より収穫開始が3~4日、収穫盛期では7~14日遅くなる。この傾向は、通年被覆により雨よけ区の開花が前進した場合も同様である。そのため、露地の収穫期に惑わされ、果皮色が薄く糖度の低いうちに収穫しないよう、食味を確認した後、収穫を開始する。
4. 雨よけ栽培は露地栽培よりもハダニが発生しやすく、多発すると果実に汚れが生じるので、こまめに観察し対策を取る。

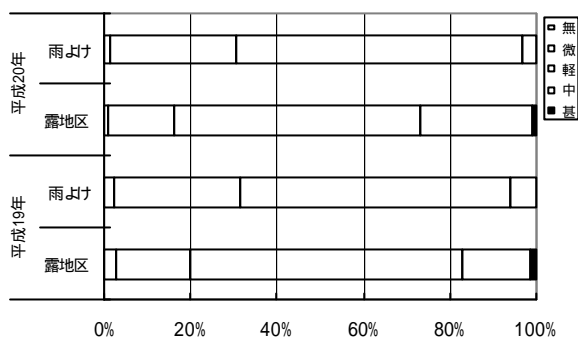


図1 雨よけ栽培と露地栽培の条紋発生程度比較

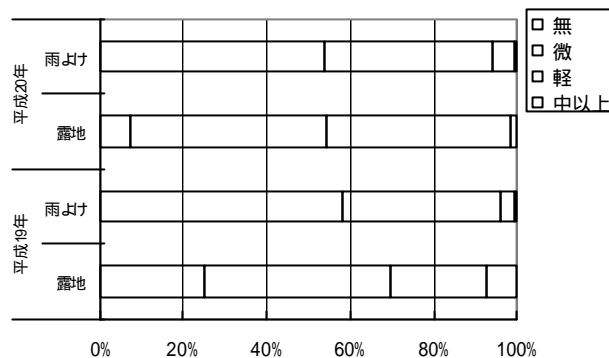


図2 雨よけ栽培と露地栽培の条紋由来汚損発生割合比較

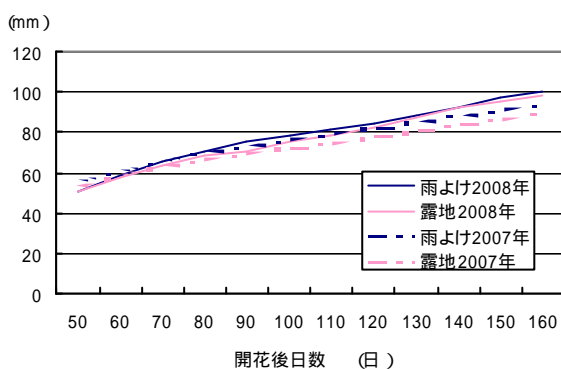


図3 雨よけ栽培と露地栽培の果実横径推移の比較

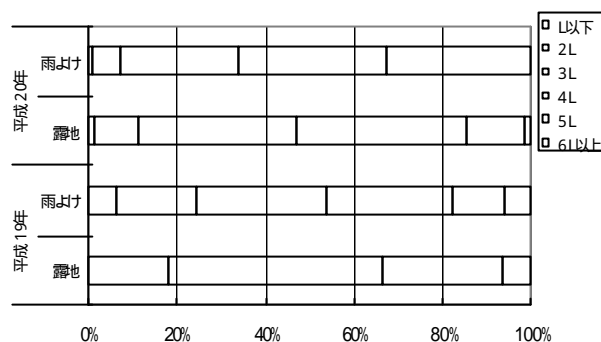


図4 雨よけ栽培と露地栽培の果実階級割合比較

表1 雨よけ栽培と露地栽培の果実品質比較

|       |     | 1果重<br>(g) | 果皮色(カラーチャート値) |     |     | 果肉硬度<br>(kg) | 糖度<br>(Brix) | ヘタスキ |
|-------|-----|------------|---------------|-----|-----|--------------|--------------|------|
|       |     |            | 果頂部           | 赤道部 | 果底部 |              |              |      |
| 平成20年 | 雨よけ | 477        | 4.9           | 4.7 | 4.9 | 1.30         | 16.7         | 2.5  |
|       | 露地  | 403        | 4.6           | 4.0 | 3.6 | 1.18         | 15.9         | 2.0  |
| 平成19年 | 雨よけ | 395        | 4.8           | 4.8 | 5.0 | 1.28         | 16.5         | 1.8  |
|       | 露地  | 334        | 4.5           | 4.5 | 4.6 | 1.53         | 16.0         | 1.8  |



写真1 雨よけ栽培と露地栽培の果実比較  
(雨よけ:左2列 露地:右2列)